

## 国立大学法人山口大学 中期目標

### (前文) 大学の基本的な目標

地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学へと進化していきます。そのために、次の基本的な目標を掲げます。

### 【教育】

山口大学は、学生と教職員が一体となり、“共育”する大学を作っていきます。「課題探求力」や「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持つ人材育成を行い、社会の高い評価を受けるとともに、在學生や卒業生及び留學生の「誇り」と「信頼」を受ける大学になります。

そのため、学生教育を重視する大学として「育成する人材像」を明確にし、「教育プログラム」を不断に改善・充実して、学士課程教育や大学院教育を充実し、さらに、横断的な学問分野や進展する社会の様々なニーズに対応した新しい学部の設置構想をも視野に入れた改革を進めます。

### 【研究】

山口大学は、専門分野での学問深化と、分野間の協力で行う総合的な研究によって、人間、社会、自然などの総合的な理解を進める研究、課題を解決する研究、新たな価値創造を目指す研究を推進します。

そのために、自己変革を繰り返しながら戦略的な取り組みを展開し、特徴ある教育研究拠点形成やイノベーション創出機能の強化などを実現するとともに、研究基盤を継続的に強化して多様な研究を促進し、「知の重層的なストック(蓄積)」を形成し、社会と大学との「バリュー・チェーン(価値連鎖)」の形成を目指します。

さらに、研究推進の取り組みと研究評価にもとづく改善を積み重ねることにより、研究において「複数の強みが連鎖的に生まれる大学」を築きます。

### 【社会連携】

山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。

本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します。

以上の基本的な目標の実現のため、山口大学は、大学をめぐる情勢の変化に即応したス

ピード感のある意思決定と効率的かつ迅速な業務の実施，中長期的な行動計画と財務計画に基づく持続的な経営，社会のニーズに即応した柔軟な学部・研究科等の再編などを念頭に置き大学改革を進めます。

#### ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

##### 1 中期目標の期間

平成22年4月1日から平成28年3月31日までの6年間とする。

##### 2 教育研究組織

この中期目標を達成するため，山口大学に別表のとおり教育研究上の基本組織を置く。

#### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育に関する目標

###### (1) 教育内容及び教育の成果に関する目標

###### 【学士課程】

- ・ 山口大学の学生受け入れの基本方針を明確にし，各学部の教育・研究の特色を踏まえアドミッションポリシーに応じた学生の受入を推進する。
- ・ 幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実を図るため，学位授与の条件を明確化するとともに，それを確実に達成できる学士課程教育カリキュラムを編成する。
- ・ 高等学校と大学との接続の円滑化を図るため，教育方法の改善を推進する。また，学士課程教育の質を維持・向上させるために，情報通信技術（ICT）を活用した教育方法を導入する。

###### 【大学院課程】

- ・ 教育力・研究力に富む高度専門職業人を養成するためのアドミッションポリシー（AP）及びGPを明確にし，それに従ったカリキュラムを編成するとともに，学位授与に至るプロセスを明確にして，大学院教育の実質化を推進する。
- ・ 国際的視野と実践能力を持ち，国際的に活躍できる学生を育成するための教育研究環境を整備し，本学の国際化や国際競争力の向上を図るための方策を推進する。

###### 【学士課程及び大学院課程】

- ・ GPの達成を保証するための成績評価法を確立し，実施する。GPの総合的な達成状況や授業の履修状況を把握できるシステムを確立し，意欲的で計画的な履修を促進する。
- ・ 外国人留学生の増加を図る方策を推進するとともに，外国人留学生の日本理解と日本語能力を向上させる取り組みを推進する。

###### (2) 教育の実施体制等に関する目標

###### 【教職員の配置】

- ・ 学長のリーダーシップのもと，全学的な視点から戦略的・計画的な教員配置を行う。

### 【教育環境の整備】

- ・ ICT を積極的に取り入れ、教育研究環境及び学術情報基盤を総合的に整備し、全学共同利用体制を推進する。
- ・ 本学の教員が自主的・自律的・日常的に教育改善に取り組む体制を整えるとともに、組織的なFD活動を促進・支援することにより、FD活動の実質化を推進する。

### 【教育の質の改善のためのシステム等】

- ・ 教育の質の向上や改善を図るため、他大学等との連携により教育体制を整備する。

### (3) 学生への支援に関する目標

- ・ 学生と教職員との密接なコミュニケーションのもと、学生の能力及び個性に応じた学習支援を行い、学士力・社会人力の育成を促進する。
- ・ 学生の健康を守り、保持・増進させるためのメンタルヘルス及びヘルスプロモーション支援体制を維持・充実するとともに、充実した学生生活を営めるよう相談及び支援を行う。
- ・ 学生が、その能力、適性及び意欲に応じて、主体的に進路を選択できるよう、適切なキャリア支援を行う。

## 2 研究に関する目標

### (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

#### 【目指すべき研究の水準】

- ・ 研究者の自主的な個別研究、地域の特色を活かした研究、学内外及び国内外の研究者の共同によって行うプロジェクト研究などを通じ、世界水準の研究成果を連鎖的・持続的に生み出す。

#### 【研究成果の社会への還元等】

- ・ 研究成果のうち、社会とバリューチェーン形成ができるものを学外へ発信するとともに、地域と大学、産業社会と大学などの本学の有する様々な連携システムを活用して社会還元を進める。

### (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

- ・ 拠点形成を行う分野及び社会からの要請が高い分野への研究者（博士研究員ポスト等）の重点配置や、研究推進体における組織形成の支援を行うとともに、若手研究者への研究支援の充実を図る。

#### 【研究環境の整備】

- ・ 研究用施設・設備及び学術情報基盤を計画的に整備・充実することにより、教員及び大学院生等の研究活動の高度化を支援する。

#### 【研究の質の向上システム等】

- ・ 大学として組織的な研究支援を行う研究者や研究グループに対しては、国際的な通用性の観点を取り入れた評価方法を導入し、研究活動の改善を図る。

### 3 その他の目標

#### (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

- ・ 地域の様々なセクター（大学、行政機関、民間機関、企業団体、市民団体）などとの連携システムを活用して、地域の文化・経済活動の維持・発展や地域イノベーションを指向する総合的な地域活動を行い、多様な成果を生み出す。
- ・ 地域社会との連携・協力を推進し、地域の知の拠点として学術成果情報の発信と支援を行う。

#### (2) 国際化に関する目標

- ・ 地域との連携を強化しつつ国際協力を推進するとともに、国際的な研究連携の強化のため、重点拠点国及び重点連携大学を定め、組織的かつ包括的な連携活動を展開する。

#### (3) 附属病院に関する目標

##### 【病院機能の質的向上に関する目標】

- ・ 病院機能の質的向上を図り、より安心・安全で先進的かつ高度な医療を提供する。

##### 【地域医療への貢献に関する目標】

- ・ 山口県の中核医療機関として、山口県及び地域医療機関との連携を推進し、地域に密着した高度な医療を提供する。

##### 【良質な医療人の養成と医師不足対策への取り組みに関する目標】

- ・ 将来を担う良質な医療人を育成するために、卒前・卒後教育及び専門教育並びに研修を充実する。

##### 【安定的な病院経営に関する目標】

- ・ 診療、研究、教育の充実のため、戦略的な病院経営を実現することにより安定的な財政基盤を確保する。

#### (4) 附属学校に関する目標

##### 【大学・学部との一体的な教育・研究に関する目標】

- ・ 大学・学部主導の教育・研究体制を整備し、「教員養成」「授業研究」の先導的モデルを創出する。

##### 【学校運営の改善及びあり方の検討に関する目標】

- ・ 大学・学部、附属学校、地域教委等の学内外関係者の協働組織による学校運営の検討・改善を図る。

##### 【教育研究成果の地域社会への還元に関する目標】

- ・ 大学・学部の教育・研究資源及び成果を活用し、地域の行政機関や公立学校、保護者等のニーズに対応した支援を進める。

## II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### 1 組織運営の改善に関する目標

#### 【教育研究組織の柔軟かつ機動的な編成・見直し】

- ・ 大学の機能をより一層個性化するため、学長がリーダーシップを発揮できる環境を整備し、戦略的な法人運営を行う。
- ・ 学生や社会のニーズを踏まえて柔軟に教育研究組織の見直しを進めるとともに、学生定員の適正化と学生数の確保に努め、適正な教育研究環境を保持する。

#### 【人事制度の改善】

- ・ 人事評価システムの定着を図るとともに、キャリアアップ研修等の充実など、活力ある組織を構築する。

### 2 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ・ 業務の効率化・合理化及び事務組織の見直しを不断に進め、限りある人的資源を有効に活用する。また、ICT化を戦略的に推進して学生や社会に対して質が高く迅速なサービスを提供する。

## III 財務内容の改善に関する目標

### 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ・ 競争的資金、寄附金及びその他の自己収入を確保し、健全な教育・研究環境の整備を行う。

### 2 経費の抑制に関する目標

#### (1) 人件費の削減

- ・ 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成 18 年法律第 47 号)に基づき、平成 18 年度以降の 5 年間に於いて国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。

#### (2) 人件費以外の経費の削減

- ・ 予算の効率的な執行に努めるとともに、業務の見直しを図り、経費の削減を図る。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ・ 資産を常に良好な状態で管理し、資産の目的に応じて有効な活用を推進するとともに、保有資金の現状把握に努め、保有資金の効果的な運用を行い、運用益の確保を図る。

#### **IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

##### **1 評価の充実に関する目標**

- ・ 大学活動の自己点検及び改善を効率的に実施するシステムを確立し大学活動の質の向上を継続的に図るとともに、その自己点検・改善活動の状況を適切に社会へ公開する。

##### **2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標**

- ・ 多様な広報の手段・機会を効果的に活用し、社会への説明責任を果たすとともに大学ブランド力を高めるための情報提供・広報活動を推進する。

#### **V その他業務運営に関する重要目標**

##### **1 施設設備の整備・活用等に関する目標**

- ・ 高度化・多様化した教育研究・医療及び国際交流の使命達成に向けた基盤としての施設の整備・充実を図るとともに、全学的見地から、保有する全ての施設の効率的・弾力的な運用を促進する。

##### **2 安全管理・環境配慮に関する目標**

- ・ 学生や教職員等の安全や健康を守る体制の充実を図るとともに、情報セキュリティの基本方針に則った、安心・安全な情報の確保に努める。
- ・ 低炭素社会の実現に向けた環境負荷の低減を推進する。

##### **3 法令遵守に関する目標**

- ・ 大学人として求められる研究倫理や社会規範を守り、法令遵守に関する啓発活動を進めるとともに、適切な内部統制を行い、公正・公平な業務運営を進める。

別表 (学部・研究科等)

学 部	人 文 学 部 教 育 学 部 経 済 学 部 理 学 部 医 学 部 工 学 部 農 学 部 共 同 獣 医 学 部 国 際 総 合 科 学 部
研 究 科	人 文 科 学 研 究 科 教 育 学 研 究 科 経 済 学 研 究 科 医 学 系 研 究 科 理 工 学 研 究 科 農 学 研 究 科 東 ア ジ ア 研 究 科 技 術 経 営 研 究 科 連 合 獣 医 学 研 究 科

(連合獣医学研究科参加校)

大 学 名	山 口 大 学 (基幹校) 鳥 取 大 学 鹿 児 島 大 学
-------------	---------------------------------------

※本学は鳥取大学大学院連合農学研究科の参加校である。